

くじゅうタデ原湿原周辺の自然林



ブナ林

ブナ林

ブナ群落は山地帯を代表する群落で、この地域では小面積ながら比較的地形が安定して、水分供給が十分なところに見られます。林内にはコハウチワカエデ、コシアブラ、シラキなどが生育しています。



崩壊した土砂は谷を下り湿原を埋めていく



ミズナラ林

ミズナラ林

くじゅう山群に広く分布する落葉広葉樹林で、タデ原周辺でも広範に見られます。高木層はミズナラ、亜高木層はリョウブ、低木層はタンナサワフタギやノリウツギが優占種となっていて、初夏の新緑、秋の紅葉は訪れる人々の目を楽しませてくれます。



湿原を維持する自然林内の湧水

タデ原湿原はくじゅう登山の基点となる長者原から北に広がり、周囲は湯沢台、指山、硫黄山、星生山、黒岩山、泉水山などが馬蹄型に連なっています。湿原の東及び南側の山腹に降った雨水が水源となって湿原を維持し、山腹や湿原周辺の自然林は恒常的な水の確保、土砂の流入防止という、重要な役目を担っています。



アカマツ林

アカマツ林

指山山腹の表土の薄い尾根筋には樹高約20mアカマツが立ち、高木層の優占種となっています。アカマツの自然林では林床にツツジ科植物を伴っていますが、ここでは顕著な結び付きは見られません。かつて植栽されたものかもしれません。



真夏に開花するノリウツギ

ノリウツギ林

湿原に接したところではノリウツギが優占種となった灌木状の群落が見られます。これは湿原の乾燥、陸化に伴って森林化の始まったところです。



ノリウツギ林



タデ原湿原と周辺の自然林